



芦屋「九条の会」ニュース

発行責任者：片岡 隆 連絡先 090-7118-2312

<http://ashiya9.web.fc2.com/>

芦屋「九条の会」16周年記念のつどい開催

軍事的抑止力から人間力による抑止へ

3月20日、芦屋「九条の会」は16周年記念のつどいを開催しました（芦屋市・市教委後援）。池内了さん（名古屋大学名誉教授、宇宙物理学者）による「コロナ禍と戦争 ～宇宙物理学者が語る抑止力とは～」と題しての講演会に、100余名の参加がありました。伊藤芦屋市長から大変丁寧なメッセージが届きました（同封しています）。コロナ禍のため久しぶりの講演会でしたが、感染対策をして臨みました。その概要を紹介します。

コロナ禍を戦争にたとえるのは国民を従属させるため

安倍前総理や各国リーダーが、コロナ禍を「戦争や国難」にたとえるのは国民を政府に従わせ自粛を要請するため。また、貧富の格差や最低賃金等の矛盾から目を逸らせる。知らず知らずのうちに自国優先主義・国家主義・排外主義・優生主義になり、個人の自由より集団の利益が優先され、コロナファシズム的な要素がでてきている。

新型コロナウイルスに対して核兵器もミサイルも無意味で、軍事費を医療体制の充実に使う方が有益であるにもかかわらず、世界は軍拡に励んでいる。

戦争は終焉に向かっている

3大軍事大国（米・中・ロ）が世界の軍拡競争を牽引している。大国間の戦争は起こっていないが、大国が小国に干渉し武力で屈服させている。数多くの戦争が起こっている印象だが、今多いのは小国内の反体制勢力との紛争やテロや小競り合い。世界は戦争が無くなる方向に歩んでいる。最新鋭の兵器を動員した戦争は終焉したのではないだろうか。戦争は、国家間の対立・紛争を解決する手段ではなくなった。

戦争が終焉に向かっているのは、世界が政治的・社会的・経済的・文化的・学術的に繋がっているから。また、国連は限界がある中でも機能している。戦争を起こしても何のプラスもならないし、国際的に孤立し、むしろ経済的に立ち行かなくなる。人類は知的に進歩しているということに自信を持とう。



人間同士のむすびつきで、平和を

しかし、なぜ各国は軍拡に走っているのか？軍事的脅威を煽る軍産複合体は湯水のように税金を使える。武力を持っていると「敵」から攻められないという抑止力論等がある。科学者が新兵器を考案し、軍がそれを採用し配備する。科学・技術は人を活かすためにも、人を殺すためにも使われるので、常に監視する必要がある。（裏面につづく）